

第5章 拠点化構想の実現に向けて

1 拠点化構想の実現に向けた取組みについて

(1) 駅周辺に対する地域及び圏域の興味・関心の向上

(2) 拠点化構想の具体化に向けた検討の深化

地域の行動

(3) 誰もが使える拠点の駅前への設置・活用

(4) まちづくり組織成立に向けたワイワイ会議の成長

(5) まちづくり組織の自立に向けた仕組みづくり

行政の行動

(6) 事業推進のためのまちづくりのストーリーづくり

(7) 庁内プロジェクトチームの導入

(8) 継続的な構想の進捗確認・見直しの実施

2 個別の取組みの実施・継続について

(1) にぎわい創出のためのイベントの継続と利用可能なエリアとしての認知向上

(2) 空き店舗活用のモデルケースの蓄積

(3) 商店主の負担軽減によるにぎやかしの取組みへの協力や空き店舗活用の推進

(4) 駅利用者や駅周辺の居住者に限定しない広報活動の検討・実施

1 拠点化構想の実現に向けた取り組みについて

(1) 駅周辺に対する地域及び圏域の興味・関心の向上

居住地であり交通結節点でもある穂積駅周辺の拠点化構想を推進していくための第一歩として、駅周辺に住む方や穂積駅を利用する方等、穂積駅周辺に係る様々な方の「駅周辺が変わるかも」という認知・理解を広げ、地域の本気度を高めていくことが必要です。

そのために、ほづみ夜市等のにぎやかしの取り組みや街灯の設置・更新、試験的営業を行う店舗の設置等のすぐできる取り組みといった『目に見え、効果を感じられる』取り組み、また穂積駅周辺の自治会をはじめとする関係者への積極的な周知活動を行っていくことが必要です。

(2) 拠点化構想の具体化に向けた検討の深化

穂積駅に関係する方、特に駅周辺に住む方の拠点化構想に対する関心を高めていくためには、拠点化構想を進めていくことによってまちにどのような変化があり、どのような効果があるのかを明確に伝えていく必要があります。

具体的な検討に向けて必要な交通量調査等の各種調査や、ワイワイ会議等を通したまちづくりの勉強会の実施等による地域と協働した構想の詳細な検討により、構想の具体化を加速させ、将来像を明確にしていきます。なお、構想の具体化にあたっては決して行政からの一方的な提案とならないよう、穂積駅に関係する方々の意見を踏まえながら検討を進めます。

(3) 誰もが使える拠点の駅前への設置・活用

駅前拠点事務所がワイワイ会議の時以外でも利用されるような、地域にとって身近な場となることで、「駅周辺に自然に集まる」環境の一助となることが期待されます。

そのため、地域の方や大学生等が何かしたいと思った時に気軽に誰もが活動拠点として利用できるような使い方の工夫や、使えるということの周知を行っていきます。

また、現在駅周辺で利用されていない公共施設についても利活用を進めていくことで、複数の活動拠点が連携する環境をつくり、駅周辺でできることの幅を広げていきます。

（４）まちづくり組織成立に向けたワイワイ会議の成長

長期的なまちづくりを推進していくためには、地域が主体となって、拠点化構想の推進やにぎやかしの取組みを行っていくことが必要です。

そのため、ワイワイ会議への大学生の継続的な参加や商工会会員の若い世代の参加、駅周辺自治会の参加等の要請を積極的に行うとともに、参加者が定着・成長するための工夫を行っていきます。

また、ワイワイ会議が商工会や店舗経営者、朝日大学、中学校等の多様な主体と連携した取組み（大学、中学校と連携した駅周辺まち歩きマップづくり、商工会と連携したお店紹介等）を行っていくことで、関係者の成功体験を積み重ね、自分たちがまちづくりの中心にいるんだという意識醸成を図り、将来的なまちづくり組織の成立につなげていきます。

（５）まちづくり組織の自立に向けた仕組みづくり

将来のまちづくり組織の自立に向けた資金確保の方策について、地元企業やNPO団体等に対して拠点化構想の考え方や想い、状況等について説明を行い、賛同していただいた企業等との連携を図り、直接的な資金の支援だけではなく、イベント時のチラシ作成や人員動員等の間接的な支援等、様々な協力体制を構築していくことが必要です。

また、資金確保の面ではまちづくりに関するクラウドファンディング（不特定多数の人によるインターネット等を通じた財源提供や協力）での資金調達等の新たな手法も検討し、組織の自立に向けた仕組みづくりを行っていくことが必要です。

（６）事業推進のためのまちづくりのストーリーづくり

拠点化構想の検討継続と事業の実現性向上のために、瑞穂市全体のまちづくりについて総合計画や総合戦略等との整合性を図りながらストーリーを組み立てた中で、穂積駅周辺に関連する諸計画の策定等を通して位置付けや集積すべき機能を明確にするとともに、財源の確保にも努めることが必要です。

（７）庁内プロジェクトチームの導入

拠点化構想の推進にあたっては、多種多様な連携を行うために行政の横断的な体制が必要となります。そのため、着実かつ効率的な事業推進のために庁内での関係業務のワンストップ化を図り、関係者との円滑な合意と関連施策の導入を図るため、庁内プロジェクトチームの導入を推進します。

（８）継続的な構想の進捗確認・見直しの実施

基本方針ごとの「評価指標」やロードマップ、今後5年間の取組みの内容を基に事業の進捗について協議会やワイワイ会議の参加者等によるチェックを行い、定期的なPDCAの実施・改善を行いながら、時代に即して拠点化構想を進めていきます。

2 個別の取組みの実施・継続について

(1) にぎわい創出のためのイベントの継続と利用可能なエリアとしての認知向上

駅周辺のにぎわい創出を目的とした夜市等のイベント等を実施することで、駅周辺を利用して“自分たちでも何かできる”という認知度を向上し、駅周辺での多様なアクティビティを増やしていくとともに、もっと便利に、自由に使える空間（フレキシブルゾーン）の需要が高まり、拠点化構想の実現が加速していくことが期待されます。

(2) 空き店舗活用のモデルケースの蓄積

今年度、駅周辺のにぎわいの創出に向け、空き店舗利活用アイデアコンテストを実施し、採用された2店舗の内1店舗は補助期間の終了後も営業を継続しています。

来年度以降も継続してアイデアコンテストを行いながら地域住民・駅利用者等の多様なニーズの把握、穂積駅周辺の経営のモデルケース形成等に取り組み、利用者だけでなく穂積駅周辺にお店を出したいと考えている人や空き店舗を所有している人に対し「自分でもできるかも」、「貸すとまちにこんな影響があるんだ」という気づきを促し、空き店舗を活用した駅周辺の利便性、賑わい向上につなげていきます。

(3) 商店主の負担軽減によるにぎやかしの取組みへの協力や空き店舗活用の推進

既に店舗を持っており、にぎやかしの取組みへの協力や新たな店舗の営業の負担が大きく、活動の展開に踏み出せない方も存在していると思われます。

そのような方のため、一店舗で昼の時間帯と夜の時間帯の2つの時間帯で営業者が変わったり、複数の店舗が商品を持ち寄り駅前の店舗で販売する等の、営業形態の多様な選択肢を検討し、意欲や能力がある方の負担を減らしながら新たな駅周辺の魅力の種を引き出すことにつなげていきます。

(4) 駅利用者や駅周辺の居住者に限定しない広報活動の検討・実施

駅周辺でにぎやかし活動を行い、機運醸成を図っていくにあたっては、その対象を駅を利用する方や駅周辺に住む方に絞るのではなく、普段穂積駅を利用しない郊外や市外、圏域外に住む方の利用も促進することで、駅周辺のにぎわいを拡大させていく母数を増やしていくことが期待されます。

そのため、取組みの内容と対象とする方々の年代、居住地等にあわせて広報活動の方法を工夫していくことが必要です。

また、来街者に対しては瑞穂市内の名所・名産の情報発信やアクセス環境の整備により、賑わいを市内・圏域に波及させていくための仕掛けを行っていくことも必要となります。